

ぱる通信

地域精神保健福祉コミュニティ誌

4

No. 218
Apr. 2016

特集：ひきこもり従事者研修報告！

「大丈夫、ここからだよ」～キボウ×居場所＝生きチカラ～

基調講演：「ひきこもり支援からみた現代の子ども・若者」長岡 秀貴氏

特集：ひきこもり支援従事者研修報告！

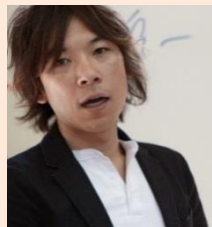
「大丈夫、ここからだよ」～キボウ×居場所＝生きぢカラ～

基調講演：「ひきこもり支援からみた現代の子ども・若者」

基調講演講師：長岡 秀貴氏

いまいじん

(NPO 法人 侍学園スクオーラ・今人)



長野県上田市生まれ。高校教師を経て「自分の学校を作る」という目標のためショットバーや出版社を立ち上げ、開校資金を地道に集める。2004年、日本で一番小さな学校「NPO 法人 侍学園スクオーラ・今人」を開校。生きる力を共に育む

「共育」という理念が多く賛同者を集めた。現在も生徒たちへの自立を支援しながら、講演活動、悩みを抱える人々へのカウンセリングを行っている。2015年侍学園設立までを描いた自身の書籍「サムライフ」が映画化され、全国主要都市の映画館で公開された。

ひきこもり・ニート・不登校の問題は昨今様々なメディアでも取り上げられ、大きな社会問題の一つといわれています。ひきこもり支援センターあすてっぶも岡山市から委託を受け、ひきこもりの方へのサポートを行っています。そこで平成二十八年二月二十八日、旧内山小学校体育館にてあすなる福祉会の企画による「ひきこもり支援従事者研修会」を開催いたしました。「大丈夫、ここからだよ」～キボウ×居場所～生きぢカラ～という研修テーマは、基調講演にお呼びした長岡先生の言葉をお借りしたものです。映画「サムライフ」を観て長岡先生の存在を知り、長野県上田市尋ねて侍学園の生きるパワーに圧倒されました。誰でも自由に持つことのできる「キボウ」、それを安心して発することが出来る「居場所」があれば、生きる力に繋がっていく…。まずは支援者がキボウを信じる事、たとえ小さく質素な場所であっても、その人自身の存在が認められる場所を提供する事等、私たち支援従事者の在り方を再認識し、より充実した支援を行うためのヒントが得られれば、そんな思いで作りあげたひきこもり支援従事者研修会の報告です。基調講演の内容をご紹介します。

「5250円」

いきなりみなさんに質問です。
今いる大学生の人たちが抱えている一つの数字。「5250円」って大学生にとってなんの数字だと思いますか？

一日のアルバイトで稼ぐ数字？

奨学金の月額借金返済額？

遊んでいるお金？

実は、大学によって違いますが九〇分一コマの料金なんです。

問題は今の大学生たちが、その九〇分一コマをこれだけの価値として受けとめているかどうかという事です。

今はほとんどの人が大学に入学しています。ところが大学の卒業の就労率が七割を超えていないんです。だいたい四年間一人暮らしをする平均千二百万、それだけお金をかけるんだけど、大学卒業してすぐ働けるかというとそうではなく、一〇人のうち三人は就労出来ない現実があります。一人一人がこれだけのお金の価値を持てるかどうかが重要です。つまり人が一人生きていくためのコスト計算なんです。人が生きていく為のお金ってものは、その家族単位の経済的な尺度でいうとどれくらいあるのかということが、なかなか現在の日本人は考えていないんじゃないかと思うんです。

絶望から再び生きようと思ったきっかけ

僕の夢は学校を設立するだけではありません。結構勘違いされているんですが、どんな生き方をするかを決めていた時から、やらねばならない事とやってみたい事を頭に浮べて整理してきました。

一六歳の時左半身が麻痺しICUに入っていたことがあります。何とか命が繋がったんですが、医師から自足歩行は無理だと言われ、そこから絶望が始まったんです。今も全国各地からいろんな相談があります。その人たちの中から絶望の言葉が飛び込んできます。「死にたいんですけど」「これから死のうと思えます」とか。「死んだらだめだよ」というと「なんで死んだらいけないんですか」「自分の命なんだから始末をつけます」と。つらいこともあるが、その言葉すべてが僕にとって絶望していないこともあります。



僕にとつては『死にたい』というよりは人の役に立
てない自分が絶望そのものでした。このまま生きて
いてもおやじやおふくろに迷惑をかけるだけだから
早く終わりにしたいと思っていました。

絶望とは何も考えられないことです。苦しい、悲
しいという訴えは生きるという一つの方向であり、
それをキャッチさえすればその人たちはちゃんと足
を前に出していけるんじゃないかと思っています。

僕自身も絶望していたんですが、高校の時の担任
が病室に毎日お見舞いに来てくれて、「お前が必要
だ」と言われたその一言で、生きようと思っていなか
った自分の命の窯にちよつと火が灯ったんです。この
人の為に生きてみようと思えました。そこで一度自
分の命が終わったけど、人様によって人生をもう一
度歩み始めたわけです。

この二回目の人生は人にもらった命なので、僕の
時間という財産は誰かの為に使い続けようと思
えました。僕のスタートはたったそれだけでした。

つまり、すべては人が幸せになる瞬間に触れてい
く生き方しようと思っています。たったそれだけ
の事。その中にこの職業が人の幸せに触れる職業と
断定する事ではなく、世の中にはたくさんの人が幸
せにふれていく瞬間、役割があるとぼくは思ってい
ます。

大切にしてきたもの

何を大切にきたかというのと、一人で百歩で
はなく百人で一步ということ。一人でやるの好
きでないし、面白くもなんともない、手柄はどう
でもいいし、評価されることに何とも価値も感じ
ません。チームで何かをやつてチームが賞賛され
ることにものすごく興奮があります。なのでみんな
どうしてもやりたい、百人で一步進めたい！これ
を心がけてやってきました。

僕の目標とみなさんの目標は違うし、目標と夢
も違います。いや、寧ろ違つていいと思います。目
標は一人のマンパワーで出来る事です。自分の努力
を積み重ねれば実現出来るものです。一方で夢は
自分の力だけでは無理です。誰かの力を借りて、
誰かの力と力が融合して化学反応によつて起こる
事実、それが『夢』です。自分の力だけではどうに
もならないが、こういう風になつたらいいねと誰か
と作つていく事が夢なのではないかと思っています。

別に夢がかなえられる世の中がすばらしいと思
つていません。夢を持つていない子どもたちが不幸
だとも思いません。夢を持つてなくてもどうやつて
幸せに生きていくかがぶれなければ、人々はちゃん
と豊かな人生を送る事が出来るのではないでしょ
うか。そこが目標達成出来る人と出来ない人の違
い。その人間の幸福価値についても然りです。
自分はどういうときに幸せなのか見えている
人たちと見えていない人たちで、実は目標の達成
というものは大きく変わつてきているのだと思いま
す。



七二五円で学校スタート！

待学園は七二五円でスタートしました。

一年目は利用者は来なかったし、来ると思つてもいま
せんでした。開校後入学者はいたが、なかなか登校してこ
ないんです。お金も将来の補償もなかったけど、不安がこれ
っぽくもなく、毎日ワクワクしていました。今までなかつ
た、もしかしたら人々が求めていたけど誰も作つてくれな
かつた幸せになる瞬間を自分たちが作れているんじゃない
かという実感だけははつきりとありました。

当時、生徒は二人だけでした。それでも世の中で二人の
生徒たちにとつて、僕たちは必要な人間だつたんです。そ
れを実感していることが僕らの幸福感だつたし、これを続
けていければ折れる事はないと思つていました。本当に貧乏
だつたけど、心だけはめちゃくちゃ豊かでした。もちろん今
も。

若者の価値とは

失業トップ二が一五歳から三九歳の若年層。(※失業
トップは五五歳以上)さらに言えば一五歳から三九歳の
若者二〇人に一人が無業状態という現実があります。若
者一人を放置するとなつたのでしょうか？

二五歳の若者が無業状態で何の支援も受けずにそのま
ま六五歳まで社会保障を使つて生きていくと、社会保障
費は六千三百万かかると言われています。ところが二五
歳で何らかの支援を受けて彼らが就労につき、納税者、消
費者になるとその地域に還元されるお金はだいたい五千
万を超えると言われています。つまり、若者支援とはそれ
だけ莫大な価値があるということです。最大で一億円を
超えるかもしれません。放置すれば税金は、彼らが明日へ
の命をつなげるために使われていくだけです。

うちの学校では去年四名を卒業させました。精神的、
経済的自立の可能性がないと卒業要件にはなりません。
つまり就労し納税者になることなんです。四名の若者た
ちが卒業出来たというと、市にとっては四億円の便益があ
り、価値があるということです。

若年者支援にかけているのが年間数十万円としたり、数十万で何億円かの価値を生み出しているということなんです。もっとお金をかけてもいいんじゃないかなと思います。そのまま税金に繋がっていくわけですから。政策というものは本来そうあるべきだと僕は思っています。

行政委託は期限付きで常に不安定雇用を強いられています。サポートステーション（以下 サポステ）も管轄が変わり労働省の事業になります。ひきこもりとか無業、という言葉はまた廃止され、サポステで受けてはいけなくなってしまうんです。ちよつと背中を押せば就労できる子どもたちだけをメインにどんどんステージが変わっていくことになるでしょう。数字を上げないと委託金がもらえない、ただで数字を上げるには本当に自分たちが支援をしなればならない人ではなく、そうではない人たちに時間を使い、本当に時間が必要な人に対して自分たちの労力を割けないという苦しみをサポステの中では行っているんです。

旗をおろすのは簡単です。ただ、サポステという一つの看板の役割が地域に対して行っている事もかなり上がってきています。

逆にNPOや地域財産になること、支えになるような事業なら僕は納得できると思っています。職員が理解し、この社会資源を残し支えていく、人材として自分はプロフェッショナルだと自覚を持つためにもそのロジカルな構造に関しては理解しておく必要があると思います。



支援の価値

例えば、五年ひきこもっていた子どもたちが社会に出るには五年かかります。じやないと嘘なんです。その子たちの五年間は、それくらい苦しんだんです。家族も本人も。だからその子どもたちにはそれくらいの時間が必要なんです。つまり支援者たちに、「早く成長させて」「なぜそんな時間かかることやっているんだ」という感覚を持たないでいただきたいんです。支援の価値はいろいろあります。そういった小さな見えない支援のカタチ、これが貨幣換算されていない事が今の支援の団体が成長していけない問題点なのかもしれません。

なので、どういう風に僕らはセーフティネットを世の中に貼っていくのか、いろんな所で実はやったりしています。

小さなワンアクション

何より大切なのは命がちゃんと続いていく事、そして命が自らの手で失われていく世の中を今の子どもたちにバトンタッチしない事です。東北の震災から五年経ちましたが、あれでスイッチが入ったと思っていた日本全国の命に対するポテンシャルもどんどん希薄化しています。そうではなくて、戦争も起きていないのにあの日一瞬に奪われてた二万五千人以上の命。一方でこの国は自死という形で命のピリオドを打っている国です。戦争もしていません。災害も毎年起きています。しかし毎年三万人弱が自死という形で命を終えているわけですよ。それは幸せな国とは言えません。

そして我々は次の世代に責任があります。そういう世の中ではない世の中を、子どもたちに渡す必要があります。小さな動きでいいんです。百人の一步でかまわないので、人が幸福感を得られるようなことを、みなさんの職場で、ご家庭で、コミュニティで、気づいた人間がワンアクションを起こすことによってどんどん日本に広げていけるんじゃないか、そしてその小さな変化が子どもたちの心に希望という種をちゃんと蒔けるんじゃないかと僕は思っています。

事業所報告

今回のひきこもり支援従事者研修会第二部では、岡山市ひきこもり地域支援センターの事業報告、ひきこもり支援センターあすなろ「あすなろ」の活動報告の他、岡山県内でひきこもり・ニート・不登校支援をされている三事業所にお越しいただき、事業所報告をしていただきました。コーディネーターに川崎医療福祉大学の長崎先生をお迎えしました。

NPO法人 山村エンタープライズ

代表理事 藤井 裕也氏



以前は通信でもご紹介した美作市にあるNPO法人 山村エンタープライズでは、約三年前より「地域おこし」として岡山県の北端に位置する美作市の梶並地区で、空き家の改修や耕作放棄地の再生などを地域に住みこんで行っている。

この春新しいプロジェクト「人おこし」をリリースし、共同生活をしながら、誰でも必ず持つ持っているリジリエンス（精神的回復力）を存分に発揮できるよう、寄り添う支援を続けている。

詳しくは <http://hito.sanson.asia/> をご覧ください。



学校法人 おかやま希望学園

のびのび小学校校長 日名 育子氏



おかやま希望学園は平成七年にのびのび小学校、平成一二年に希望中学校が開校した全国でも珍しい全寮制の学園。「生活すべてが学び」をモットーに、教職員も寝食を共にしながら生活力と学力の向上を目指している。この学園を訪れる子どもたちは、地域の学校になじみなかったり、不登校になったりと、「生きづらさ」を抱えていることが多い。学校の教職員はもちろん、吉備中央町の地域の方々に支えられ、また異年齢集団での生活を通して、社会性の育成に力を入れている。

詳しくは <http://www.kibou-gakuen.jp/> をご覧ください。

フリースペース あかね

代表 中山 遼氏

現在様々な要因で社会とつながっておらず、無支援状態の子ども・若者たちとその家族の居場所として大きな役割を担っているのが、岡山市北区にあるフリースペースあかねである。安心できる場所、どう過ごすかは自分で選択し、その場にいるだけでもオッケー！ルールは「自分も相手も傷つけない」ということだけ。個々が目指す場所への中間地点として、学校とは違う学習の場所として、お母さんたちが交流する憩いの場として、フリースペースあかねの存在は大きい。

詳しくは <http://www2.oninet.ne.jp/fs-akane/> をご覧ください。

ワークショップ



研修会の第三部では「ひきこもり支援が目指す未来」を明るくおかやまを創造しようというテーマでワークショップを行いました。1グループ5〜6人で①支援している中で抱えている問題点を提起②問題点をリフレーミング（視点を変える）、③明日から使えるアイデアを出し合う④未来のひきこもり支援を想像する、という流れでポストイットに次々と意見を書いて張り出していきました。



午前の長岡先生の基調講演に始まり、の岡山市と受託事業「あすてつぷ」のひきこもり支援の報告、岡山県内三事業所の報告と盛りだくさんの内容を聴講した後だけに、皆さん熱い想いをぶつけ合っている感じがした。この想いが冷めないよう、これからの岡山のひきこもり・ニート・不登校支援では、横のつながりも大切にしたい、日々取り組んでいきたいと思っています。



さまざまな立場でひきこもり・ニート・不登校支援をされている支援者の皆さんから出される生の声、それぞれの事業所で実践されているアイデアなど、各グループでの話し合いは尽きることなく、あつという間の一時間半。

アンケートから感想紹介



- 基調講演がとても貴重でありがとうございました。自分自身の生き方、幸せの瞬間みれる場に感謝うけました。自分の生き方を考えなおしてみよう、ふり返ろうと思いました。
- ひきこもり支援についてあまり就労につながる支援を知らなかったので勉強になりました。ありがとうございました。
- 人との繋がりの素晴らしさを改めて知れました。午後のみでしたが、とても充実した時間でした。質疑応答の時間がもう少しあったらもっと良かったです。「リフレーミング」発想の転換が出来て、とても面白くこれからも参考にさせていただきます。
- 大変わかりやすく、参考になりました。ひきこもりは大きな社会的損失、すべての人に居場所と希望がある未来が早くくるといいなと思います。
- 学校以外の生きる場所のポジティブな発信に今後大きく期待しています。熱意ある講演を聴くことができて良かったです！家族向けの機会もよろしく願います！
- 面白かった。また開催してほしい。為になりました。
- 今、この日本の問題であることを多くの人と共有したい。

最後になりましたが、今回の研修会をコーディネートしていた長崎先生をはじめ、ワークショップアシリテーターの皆様、会場設営等お手伝いいただいたボランティアスタッフの皆様方に厚くに御礼申し上げます。

やりたいことがあれば、
苦しい事でも続けられるよ。

さ え き ひでのり
佐伯 秀典 さん

ジョブサポートセンターあすなろの利用を経て清掃の仕事に就かれ、ご自分のペースで生活されている佐伯さん。そんな彼のいままでのこと、これからの思いを語ってもらった。



幼い頃

私は生まれも育ちも関東人です。なぜ、いま岡山に居るのか...については、のちほど話せたらと思います。

一人っ子だった私にとって、一番身近な影響のある大人は母親でした。いまもそれは変わりません。

小学生の時は、家庭の事情などで転校を三度も経験しました。幸いにも私は人見知りもなく、当時熱中していたサッカーのおかげもあり、いつも仲間と早くから打ち解けられる子どもでした。それも、早くに両親が離婚し、母親の手一つで育ててもらって、かぎっ子少年ながらも母親の働く姿をどこかで素晴らしいと感じながらすくすく伸び伸びと育っていたからかもしれません。

私と美容との出会い

母は化粧品会社の仕事をしながら、私を育ててくれました。仕事が休みの日には、母親の美容院に一緒にいって行き、母がキレイになつていく様子を身近に感じる事や、そこで働く人たちを眺めることが私の楽しみの一つでした。また、当時流行っていた芸能人の影響もあり(当時は吉川晃司やBOWYなどビジュアル系の歌手が一世を風靡していました)お化粧などにも強い関心を持っていました。それと同時に、人目を引くようなファッションや自分の個性を活かせる服装にも強く興味を持ち始めました。小学校時代は遊びに明け暮れた生活でしたが、中学・高校となるにつれ、

美容師への道

徐々に自分の「好き」や「かっこいい」を意識するような生活に繋がって行つたように思います。当時、特に覚えているのは中学校時代にお世話になっていた美容院へ「ここでアルバイトさせて下さい!」と直談判し、お流し(簡単なシャンプー)などをさせてもらったことです。これが、のちの自分自身の「美容の世界」へのあくなき挑戦への一歩となつていきます。

高校後の進路は迷いもなく「美容師の道」でした。ただ、卒業後すぐの就職先では、遊びにも夢中になり長続きしませんでした。しかし、やはり「かっこいい!」と自分が思える仕事は憧れの美容師のみ。そこへの道は揺らがず、再度就職先を探します。当時「カリスマ美容師」という言葉が世の中に流出してきた頃でした。「目指すならやっぱり一流の集まるところだ!」と「美容師のメッカ」であった「原宿」の美容院を履歴書を持つて雇ってくれるお店を探し回ります。三〇社くらい回つた頃でしょうか、奇跡的にも自分を雇ってくれる美容院に出会いました。

そこでの仕事は、楽なものでは決してありませんでした。流行の中心であり、尚且つその更に最先端を行うような「原宿」でしたから、毎日が格闘でした。一流の美容師をめざし地方から集まってくる若者たちに交じって私も本物になる為に日夜カラーやカット、パーマなどの修業を積んでいました。楽ではありませんでした。そこでチームプレイや「本物」や「かっこいい」を目指す仲間の存在にいつも励まされ力をもらう

日々でした。

突然、辞めてしまった美容師…しかし

しかし、一流美容師の道も中々すぐになうものではありませんでした。日々の中で不意に辞めたくなつたのです。当時、何が嫌とかではないけれど職場を辞めました。そこからは今までの美容師への道が一転し、その日暮らしのような生活が始まります。新聞広告に掲載されているようなアルバイト、特に好きでもない仕事に手を出してみたり…（何がやりたいのだろう、こんなのでいいのか…）と思いつながら月日がだらだらと流れていました。ただ、いつも傍らには「美容師への道があつたのかもしれない。なぜか、いつも手にしていたのは美容院の求人でした。気持ちを新たに何度か美容師への道を再び志し始めた頃、自分自身の違和感にも気づき始めていました。

受診、今のわたしにつながる出会い

いつも漠然とした不安が自分をつきまとうようになりました。その不安がただの不安ではおさまりきらず、大きな不安へと育っていくのです。たまたまに、私は当時住んでいた地で初めて「メンタルクリニック」を受診しました。主治医には「一週間、何もしないで過ごして「らんない」と言われたことを今でもよく覚えています。その頃の私は、常に何かにかき立てられ、追われるように何かを続けていたのかもしれませんが、不安を軽減する薬も処方されました。しかし、すぐに症状が治まる事ありませんでした。この頃から

「漠然とした不安」と付き合い始めることになるのです。しかし、幸いにも私には、その「漠然とした不安」を自分と共に眺めてくれるパートナーがいました。それが今も私自身を傍らで応援してくれる妻の存在でした。

一緒に時間を共有してくれた妻の存在

妻とは美容師時代からの仲間でした。当時、何をやつても上手くいかない、なかなか続かなかつた私を仲間の頃から励ますでもなく、力づけるでもなく、ただただ、そばで一緒にその時間を共有してくれていたのが彼女でした。そんな「ただそばにいる」「どんな自分も丸ごと受け止めてくれる」「彼女の存在そのものに救われていました。またそんな妻の存在と同じくらい、私に転機をもたらしてくれたのはある人の言葉でした。美容師の道を目指すも、なかなかうまく行かない私はある先輩に泣きながら訴えました。その方は「原宿で美容師するだけが人生じゃないよ」と言ってくれたのです。その人は私の尊敬する人の一人でした。その言葉に道が開け、人生にもう一度光が差ししてきたような気がしたことを今でも鮮明に覚えています。

新たな道

幼いころから、母との時間の中でも特に、母の趣味でもあつた「骨董市」へ一緒に行く事は何よりの楽しみでした。古道具を眺めたり、とっておきの骨董品に出会えた時はなんとも言えず悦に浸っていました。そんな趣味だつた「古道具鑑賞」を生業としてみようと思

えた瞬間でした。妻の美容院の経営と同時に、私も古道具を扱うお店の店主として新たな道をスタートさせることができました。「use（ユゼ：古くさいもの）（使い古された）」という名前のお店でした。自分の好きな事を生業とする。こんなに素晴らしい事はありません。自分で見つけてきた、とっておきの古道具を「これいいね！」と買って下さるお客様、特に当時デザイナーさんとして名の知れた方々と東京で仕事をさせてもらい、その方々にも好評をいただけるとは何よりの喜びや自信になりました。

岡山での慣れない日々、仕事が続かない

しかし、好きな事を生業にする事への難しさも痛感しました。数年間東京での好きな古道具店を経営するも継続のむずかしさを感じていました。一度生計を立て直すためにも夫婦で話し合った結果、妻の実家のある岡山の地でやり直す事にします。

初めての地、慣れない方言、大都会で流行の最先端で暮らしていた私にとって、岡山での日々は苦痛以



外のなにものでもありませんでした。頼れるものは妻だけ。そんな中で、精神的にも不安を抱えた自分自身が心機一転働き始めるにもなかなか困難なものでありました。自分で仕事を見つけるも続かず、見つかる事さえ嫌になり「これは環境が変わった事が悪いのだ」と言い訳をする自分と「なんで自分は仕事も続けられないのだろう」と自分自身を責め続ける、そんな日々が続きました。そんな時、妻の知り合いからあるなる福祉会を紹介されるのです。

「あすなろ」との出会い

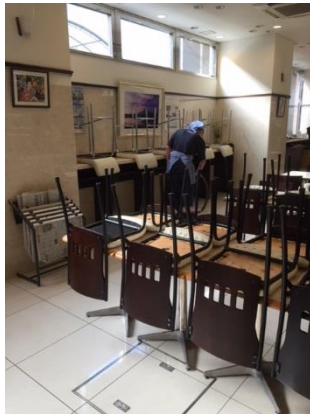
「なんなんだ、こは…?」というのが第一印象。自分自身の在り方を根底から覆す、そんな場所でした。まず、「人を頼ってもいいのだ」ということ。今までは、就職も転職も自分でもがきながらやってきました。結果として、続かず苦しむことになる訳ですが…こでは一緒に悩んでくれる「考える」ことをお願いできる。はじめは、何を自分が頑張つて、何を頼ればいいのかよく分かりませんでした。しかし、担当スタッフとの間で共に試行錯誤を繰り返しながら少しずつ自分の頑張りどころと、サポートを受けたいことなど自分の「今の姿」に合った働き方を見出して行く事が出来始めました。また、これは歳を重ねたせいかもしれませんが、以前は「うねばならない」と自分に対して厳しかったのですが、出来ない自分や不安を抱える自分も含めて「ありのままの自分」を呑み込めるようになってきたことは私にとって大きな事かもしれせん。これは、日ごろお世話になっているクリニックのカウンセリング

の先生や、主治医の先生のお蔭だと感じています。

また、やはり大きいのが妻の存在です。私の中のお天気が雨でも晴れでも、時に嵐であつたとしても…そんな私の気分の変動にも関わらず、そこに居続けてくれていることが何よりの支えになっています。

そして今、これから

現在、あすなろを通じて出会った職場で週三日の仕事を始めました。清掃のお仕事です。ここでは、なによりも自分のペースで黙々と仕事をさせてもらえることが私の安心に繋がっています。以前の私だと、もう少しやれるんじゃないかと、「余力を残さず全力で！」なんて思うことが多かったのですが、今は少しずつ慣れることから腹八分目を目指させてもらっている事も継続できている秘訣かもしれません。



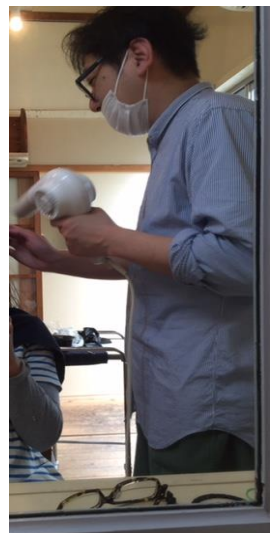
清掃の仕事をする佐伯さん

周囲の理解や支え、自分自身の考え方の変化、など色々なことがタイミングよく重なり合い、今の私があるように思います。好きなことは相変わらず「美容のこと」「古道具」です。それは今も昔も変わりません。できれば、そこにいつでも繋がっていたいと思っています。しかし、それを「生業とする」ことのむずかしさや厳しさも身を持って経験してきました。今は、妻の美容院の手伝いや時々友人の髪の毛の手入れをすることや、

古道具好きな人との語らい、そして時々のお酒の時間が日々のささやかな私の楽しみとなっています。スリッパな性格だけに、またやり始めるときと体調を崩すでしょう。それも今の自分だからこそ気づける感覚かもしれません。

「やりたいことがあれば、苦しい事でも続けられるよ」そう思います。皆さんに言える事はそんなことくらいでしょうか。しかし、私もまだ今もそれを探し続けているような気もするけど…

「ただ息してるだけじゃ、人間じゃないわよ」が母の口癖。この言葉にいつも立ち返り、未だにその言葉の意味を模索しているのが自分かもしれせんね。



時々美容師になる佐伯さん



レイアウトした物たち

投稿コーナー

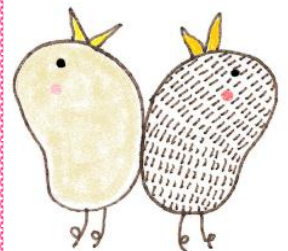
『春爛漫』
英聖さん作



ぱるっこ広場

『デスペラード』

宮浦 藍璃



感想・投稿 募集中!
詩、俳句、絵、ジャンル不問です。郵便、メール、fax等でご投稿下さい♪

今、PAブースでパソコンに向かってる。私の働いているライブハウスでは少し昔の曲をメインにステージをやっている。毎夜毎夜聞く曲の中で、私が一番好きなのは「デスペラード」だ。
「デスペラード」は少し淋しい感じのする曲調で、静かに切なく歌われる。内容は邦訳「ならず者」の通りだが、その《ならず者》とはギャングブルに明け暮れるような《ならず者》ではない。歌詞からは、現代社会に疲れ、少し精神がまいってしまっただけの青年のことを歌っているように受け取れた。
イーグルスのこの曲が気になった私は、「デスペラード」について調べてみた。どうやら舞台はアメリカ西部のどこかの牧場で、主人公は孤独を愛する中年の男。フエンスに腰掛けて遠くを見つめたり、トランプ遊びを

すれば良い手札を持っているにも拘わらず敢えて使おうとしなかったりするような、諦念と共に生きている男。もう感情も無くなりかけた、愛することも愛されることも忘れてしまった寂しい男。そんな男に語りかけているのがこの歌であると書かれてあった。
私が初めに惹かれたのは、曲調だった。歌詞も知らなかったし、誰が歌っているのかも知らなかった。でも、何かを感じた。それは根底にある「淋しさ」だ。でもそれと同時にまた希望をも感じたのも事実だ。サウダージのような言葉に表せない淋しい感じと希望のかけら。その両方を内包した曲として私に認識された「デスペラード」。

(次回につづく)

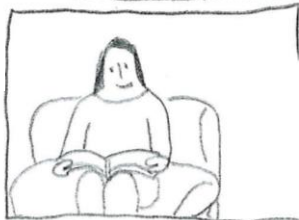
「続失デビュー11周年」

vol. 8 ふじ一歩

病気になって
10年目くらいに
図書館に通うよう
になった



絵本を半年で
700冊ほど読んだ



その後自助
ヘルプ本や
入門書などを読み



心の波が落ち
つくのを助けて
くれたと思っ
ている



だがこの英雄は、本当に英雄なのであろうか？劇中クリスはことあるごとにアメリカの正義を持ち出す。そして悪いのはアルカイダであり、自分はこの敵を倒すのだ、と。クリスの頭の中には当然のごとく、アメリカ同時多発テロの印象があった。これはアメリカにとつての屈辱だった。だからこそ多くのアメリカ人が、その報復を求めたのだ。
しかしその報復というのは、果たして許されるべきことなのだろうか？ どうしてもこのことを筆者は考えてしまう。クリスは退役後、自分の家族と幸せに暮らす。だがこの映画はギリシア悲劇なのである。決してその幸せは長くは続かないのだ。そこにギリシア悲劇同様、神の定めた運命を見るのである。

古楽日和

藤井健喜

映画『アメリカン・スナイパー』を観た。二〇一四年のアメリカ映画で、監督はクリント・イーストウッド。主演はブラッドリー・クーパー。

この映画はつまるところ、アメリカ映画の姿を借りたギリシア悲劇だと思う。クリス・カイルという男がネイビー・シールズに入り、訓練を受け、やがては自分が派遣された、アルカイダが暗躍するイラクで、退役するまで一六〇人もの敵を倒すほどの「伝説の」狙撃手（スナイパー）となるまでを描く。それはギリシア悲劇に登場する英雄たちの姿と重なる。クリスはまさにアメリカの英雄であった。

第四八回

あすなる家族の会交流会

平成二八年三月一九日(土)、あすなる本部(中区浜)にて「第四八回あすなる家族の会交流会」を行いました。初めて参加された方も含め、一三名の方が参加されました。自己紹介では、「最近の良かった事・楽しい事」として、「子供が最近就職した!」や、「自宅でヨガ・グルト作り♥」、「飲んでカラオケ☆」などあり、和やかに自己紹介が行われました。

家族の方からあげて頂いたテーマでは、「親亡き後子供の居場所について、それぞれの家族の方たちがどのように感じ、考えているのか」を、参加者の方々と話し合いました。

「人と関わることを避け、引きこもり状態。安心して過ごせる居場所を見つけてあげたい」「親亡き後についてはどの親も考えている。本人が繋がれる人や場所を少しでも多く作っておく事が大切なのは」「少しでも親が長生きする事。百歳まで生きるつもり!」等、様々な考え、意見がでました。

親亡き後でも本人が何かあれば連絡できる場所・話せる人・行ける場所、繋がり大切さを参加者の多くの方が感じているようでした。

今回の交流会は平成二七年度最後のあすなる家族の会交流会でした。一年間役員をして下さった役員の方々に感謝し、来年度にも繋げていこうという思いと共に閉会となりました。

あすなる福祉会 お花見開催!

四月一日(金)朝から雨がパラパラ降っていましたが、護国神社でお花見を決定しました。雨天の中でしたが約五〇名の参加者が来てくれ、「交流」をテーマにスタートしました。催し物としては、新人スタツフ、新人メンバーの紹介、クイズ、じゃんけん電車を行いました。じゃんけん電車では雨も止み、グループを作り、グループごとに交流を深めました。初めましての方も多かったと思いますが、いろんなグループから笑顔や笑い声が聞こえていました。

みんなで準備したバーベキューやおにぎり、のり巻きもほとんどなくなり、お腹も心も満腹になったのではないかなと思います。

今回は雨の中のお花見だった為、自分たちでテントを設営したので片付けも大変だったと思いますが、みんなで作りみんなで片付けてと手作り感満載のお花見になったと思います。



街ゼミでオリジナル箸置きを作ろう!

あすなる福祉会のある表町商店街では、年に二回「街ゼミ」というお店が講師となって専門的な知識や情報をお客さんに提供するユニークなゼミがあります。今回は、磁器を使って箸置きを制作して頂きました!親子や夫婦・友人など多くの方が複数で来所され、計十人の方にお越しいただきました。

陶芸は初めて、というお客様がほとんどでしたが、それぞれが思い思いの形を作り、クジラ・犬・火山・蛇(ー)などなど個性豊かな作品が机の上に並びました!

お越しいただいた皆様、ありがとうございました! 街ゼミ以外でも、ものづくりArt工房ではこうした陶芸体験をすることが出来ますので、お気軽にお問合せ下さい! (TEL) 〇八六―二〇一―四三三



INFORMATION

4月の予定

4月		
10	日	
11	月	
12	火	PC 講座 10 時 つどい 13 時 30 分 卓球サークル 13 時あすなる出発 13 時 30 分現地集合
13	水	
14	木	
15	金	図書館サークル 10 時 女子会 14 時 ソフトボール 13 時
16	土	眼鏡っこサークル 13 時 30 分
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	4月21日(木)～23日(土)は スタッフ研修のため、あすなる福祉会は 閉所になります。よろしくお願いします。
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	PC 講座 10 時 卓球サークル 13 時あすなる出発 13 時 30 分現地集合
27	水	
28	木	お菓子づくりサークル 13 時
29	金	昭和の日
30	土	
5月		
1	日	
2	月	
3	火	憲法記念日
4	水	みどりの日
5	木	こどもの日
6	金	ソフトボール 13 時
7	土	
8	日	

※プログラム・サークル活動に参加希望の方はご連絡を
よろしくお願いします。

※日程が変更になることもありますのでご確認ください。

- 発行: 社会福祉法人あすなる福祉会
- 〒700-0822 岡山市北区表町 3-7-27
- 編集: ぱる・おかやま
- TEL: 086-201-1720 FAX: 086-201-1713
- E-mail: pal-oka@mx35.tiki.ne.jp
- ホームページ: <http://asunarofuku.jp/>

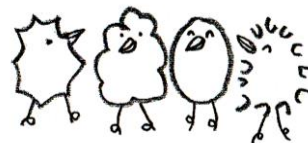
15日(金)

●◎○ソフトボール◎◎●

みんなで汗を流そう!!

時 間 13時～15時
場 所 百間川グラウンド

※送迎希望の方はお知らせください。



めがね

16日(土) **眼鏡っこ** Art of Asunaro

漫画・小説・絵・詩などを書くこと
読むのが好きな人の集い★

自分が書いたり、描いたりしたものを誰かに見てもらいた
い人や、見たり読んだりするのが好きだから作品を是非
見たいという人集まれ～♪もちろん眼鏡なくてもOK!

時 間 13時30分～
場 所 ジョブサポートセンターあすなる

22日(火) * 女子会 *

言いっぱなし、聞きっぱなしの女子トークを楽しもう♪

みなさんでお菓子を持ち寄って、おやつタイムを過ごそう☆

時 間 13 時～
場 所 ジョブサポートセンターあすなる

28日(水) おいしいおやつの時間
お菓子づくりサークル

ぱるカフェで決めたメニューをみんなで調理して、お昼ご
飯として食べよう!! (^_^)

時 間 13 時～15 時
場 所 ぱるおかやま
参加費 200 円程度(参加人数によって変動有)

<4月のピア電話相談日>



	火	水	木	金	土
	12	13	14	15	16
AM	休	○	○	○	○
PM	○	休	○	休	○
	19	20	21	22	23
AM	○	○	○	○	○
PM	休	休	○	休	○
	26	27	28	29	30
AM	○	休	休	休	○
PM	○	休	○	休	○
	3	4	5	6	7
AM	休	休	休		
PM	休	休	休		

ピア電話相談とは
同じような病気の
経験をした
ピアサポーター
グループクローバー
が、お電話であなたの
お悩みをお聞きしてい
ます。

ピア
電話相談
(086)
201-1719

お気軽におかけ下さい!

